

# 【ねがいましては】

第53号

平成5年3月23日  
共和珠算学習塾

「おおらかに」

生まれて間もない子の寝顔を見、「おおらかに育ってくれよ」とほとんどの親が願ったはず、「私は子どものために良かれと思ったことはやってきた。いや、今でもやっている」と、思っているのに、なぜか「おおらか」という言葉をあてはめると、どうしてこんなことになってしまうんだろう。と、悩んでしまう方がどれほどたくさんいらっしゃるか。

じつと夕日の沈むのを見つめている我が子に向かって、その時間さえも奪ってしまってはないでしょうか。その時は良かれと思っていたことでも、何か矛盾を感じる方が多いようです。この「おおらかに」を満足させるひとつの手段として、私は「数字(すうじ)」を重要視しない方がいいのではないかと思います。

人は皆、生まれた時から数字です。何千グラムで何センチ、そして生後何週目で・・・というようなことになり、知らず知らずのうちに、子に対し数字で見るのが当たり前になってしまいます。やがてその数字の良し悪しを周り(平均値)と比べてしまう生活がはじまります。比較の始まりです。それはやがて当たり前へと成長いたします。そして入園、入学、学校生活の中でも比較が当たり前でスタートします。

比較があれば、そこには必ず競争があります。それがテストの点になり通信簿になり、そして最近目立ちつつある「偏差値」もそこから波及しています。

数字というものは判断材料として、これほど便利なものはありません。が、これほどシビアなものもないと思われます。人の価値を軽々しく判断してしまうからです。

「数学(すうがく)」は確かにこれからも私たちの社会でさらに発達するでしょうが、私たち大人は子どもたちを数字で見すぎてはいけないということを、今改めて自覚し直さねばならないような気がいたします。

夕日が沈むとき、子は何を思っているのか、そっと最後まで見守ってやれたらと思います。

★前回号でお知らせしました「お母さんの勉強室」についてですが、具体的な内容としては、普段お子さんがされている勉強を実際に触れていただき、どのような手順で進めていけば「わかる」に達するかを研究することによって、自宅でのお子さんからの質問に答えられるようになります。(そこから新しい家庭でのコミュニケーションがはじまり、やがて親子関係の改善につながればと思います。なんといってもお子さんの一番の先生はお母さんであってほしいからです。) その他にお母さん方より優れた教育書などを紹介いただき、教育に関しての視野を広げたいと思います。その他あまり型にはまつことの無いよう、柔軟性を持たせられたらと思います。授業料は1回につき￥500とさせていただきます。皆さまから集まりました授業料は、ユニセフなど基金として用いたいと思いますがいかがでしょうか。

第1回目・・・3月27日(土)午後1:00~3:00を予定いたしますので、お時間があればご参加ください。一応の参加人数を把握いたしますので、参加の方だけご返信いただければ幸いです。

☆4月の予定

3月26日(金)~4月5日(月)までお休み、同時にこの期間、春の勉強室があります。

ご希望の方は申込書をお渡しします。

3月30日(火) 春の遠足・・・上野動物園または国立科学博物館(お手紙渡し済み)

4月 6日(火) 新学期スタート(抽せん会があります)

新入生授業見学(そろばんを始めようと思っている人は3:30より授業を見ていただきます。兄弟・お友だちがいらっしゃいましたらどうぞ)

検定試験合格発表

学習科(中学部)スタート

7日(水) 学習科(小学部)スタート